１０月２３日数学科研究授業反省会

記録　伊　藤　　心

１　授業者より

指導案にもあるとおり、普段授業に取り組む上で心がけていることは生徒が考える時間を十分に取りたいことである。そして、教員から必要以上に教えないことを心がけている。生徒が間違えやすい点、計算を速くするために必要な点を板書する。生徒には今回の授業のように毎時間模範解答を配付している。問題集の解答は途中式の省略が多く、数学が苦手な生徒にとっては理解しづらいためである。今日は微積分の分野のひさしぶりの授業であったため不安が多かったが、予習してきている生徒が多かった印象である。また、数学の理解力の高い生徒が多かったこともあり、指導案を予定通り進めることが出来た。グループ学習は、１・２年生の授業は章末問題の際に取り入れている。また、３年生の授業では毎時間グループ学習を行っている。質問の機会も普段から多く取り入れている。クラスによって反応の度合いはまちまちであるが、反応が多くないクラスでは隣近所の生徒同士で話し合う時間を設けている。

２　質疑応答

・武石先生

○グラフを２回微分まで求めずに面積の計算をしている生徒がいたが、グラフをかかせる問題でなくても２回微分までするべきであるか。

→数学Ⅲが絡む分野では、２回微分してグラフをかかせてから解かせるようにしたい。

○グラフをかくことが出来ず、増減表のみで考えないといけない問題もあるので、普段から２回微分まで調べる習慣を身につけさせたい。極値や単調増加などを見つける材料にもなる。

大学入試においてはグラフを書かなくても点数はもらえるのか？

・村上先生

○「グラフの概形をかけ」という問題でなければ、無理にグラフをかかなくても過程が合っていればいいと認識している。

・佐藤真弓先生

○大学によって要求水準が異なるため、実際のところは大学の先生でないとわからない。

・渡辺先生

○章末問題などでグループワークを行うことはあるが、聞くだけの人を作りたくないため人数を少なくしている。今日の授業では６、７人でも皆が話し合いに参加しているが、何か秘訣はあるのか。

→特にそこまでは考えていない。このクラスは武石先生からの引き継ぎであるが、９月からは毎時間グループワークを取り入れている。